

豊浜・蒲刈・安浦權伝馬関連現地調査報告

日 時：平成20年12月09日（火） 9：30～16：50

場 所：豊浜市民センター、蒲刈市民センター・中神大浦区長、安浦市民センター

議 題：地域力発掘モデル事業「權伝馬」及び海の歴史関係現地調査

調査事項：權伝馬行事の起源及び関連歴史等について聞き取り調査

調査参加者：石倉、榎本

豊浜市民センター 登能 傳課長補佐・西浦 逸郷土史編纂室長

以前は、大長、大浜にも權伝馬はあったが、大長も実施されてない。大浜は人手不足で昭和40年後半から祭り行事のみとなった。豊島では小野浦・山崎・内浦地区で実施しており、御輿の渡行を道路が整備されていない時代海路で行った名残で、競漕主体ではない。

他地区と異なるところは權伝馬と樽（おしぶね）が各々祭りに参加するところ、祭りの日程を旧暦から新暦の9月第3土曜日に変更したが、子どもの運動会に重なり広島・呉方面からの帰省者が少ないが橋が出来たので日帰り参加を期待している。祭りの参加者が少ないので厄年の同期会毎に参加を依頼している。大長の神主が權伝馬のことに詳しくが亡くなった。弟さんは健在なので若干は情報があるとのこと。（旧豊浜町資料受領）

蒲刈市民センター 盛井さんに大浦区長中神好之氏を紹介される。

中神区長は統合後の学校の扱い等苦慮されていた。豊島大橋開通に先駆け大浦が中心になり、權伝馬をイベントに参加させた。秋祭りは10月第1日曜日、今年は宇佐神社から分霊550年になる。御輿が優先、權伝馬は水主(かこ)片舷8人計16人大櫓、太鼓、サイ振り、ケンガイ各1の20名、地域の連携には責任者の把握と酒席も時には必要とのこと。

安浦市民センター 安浦まち協事業企画部長山田賢一氏

昔安浦沖はメイン航路で、シーボルト・緒方洪庵・伊能忠敬等の著名な方々が日記や記録に残しており、海岸線は景観のすばらしいところである。

安浦の權伝馬は競漕でなく、艫の2段重ねの樽上でのケンガイの舞いを見せるとのこと。

權伝馬の形態はわが島と樽以外は似通っていると感じた。大崎島にも来島された経験がありなじみの名前も話にでて、友好的な交流がもてた。（安浦資料受領）

| | | |
|-----|----------------------------|-------|
| 旅費等 | フェリー車（明石ー小長） | 1890円 |
| | 〃 人 | 170円 |
| | 調査費（朝鮮通信史資料館・松濤園入館料 800x2） | 1600円 |
| | 通行料（安芸灘大橋） | 700円 |
| | フェリー車（明石ー小長） | 2560円 |
| | 〃 人 | 370円 |
| | ガソリン代 86km @127x12.13ℓ = | 1540円 |
| | 現地調査費合計 | 8830円 |